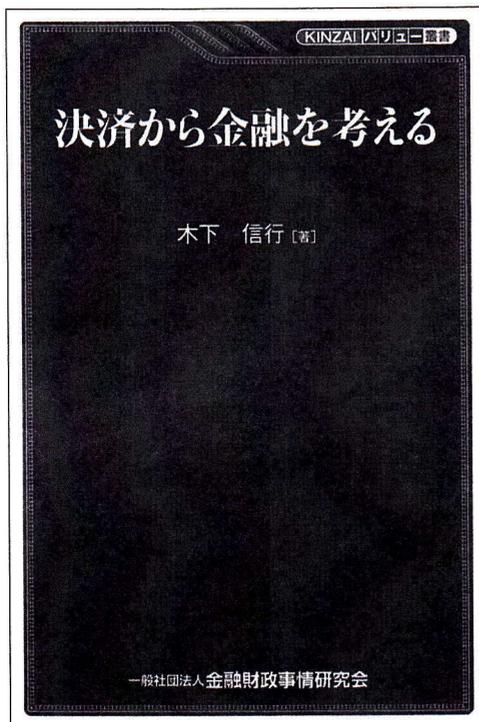


木下 信行 著 『**決済から金融を考える**』
 (金融財政事情研究会)



著書の木下氏は、金融庁や日本銀行で要職を務められた方であり、幅広い見識と斬新な発想力で金融業界では高名な方である。本書では、こうした金融当局や中央銀行での長年の経験を踏まえて、「決済を切り口」に金融を考えていくことを提唱している。以下、本書の構成に従って、内容をみていこう。

第1章では、「銀行券による決済」には物理的な制約があることから、「預金による決済」が広く用いられるようになっており、そこでは全銀システムや日銀ネットなどの「決済システム」が重要な機能を果たしていることが論じられる。そして、決済システムが情報通信技術の進歩とともに発展していることや、銀行業務の名残に

麗澤大学経済学部教授 **中島 真志**

よりデメリットが生じていることが指摘されている。

第2章では、情報セキュリティと決済システムとの関係が論じられる。決済システムがコンピュータとネットワークに依存するようになってきていることから、コンピュータ障害への対策や情報セキュリティ面の配慮が高まっていることが述べられている。

第3章では、ネットワークとしての側面から決済システムが論じられる。金融機関は、決済システムを通じて結びつくことによってネットワークを形成しており、「ネットワークの外部性」などの性質を持つ。また、決済システムの形成に向けた政府のいくつかの寄与が論じられている。

第4章では、市中銀行や中央銀行の機能と決済システムとの関係が論じられる。特に、日本銀行の収益構造からみた通貨発行益（シニョリッジ）の説明は実に明快である。また、決済リスクやその管理について論じたうえで、決済システムに関する政府の役割について述べている。

第5章では、金融市場との関連における決済システムの役割が、証券取引と証券決済システムを中心に論じられている。その中で、リーマンショック時の市場型取付けとそれを防止するための清算機関の役割についても触れられてい

る。

第6章では、決済サービスの高度化の動きとして、EUにおける「SEPA」(単一ユーロ決済圏)、英国における24時間・365日決済を提供する「ファスターペイメント」、新日銀ネットにおける稼働時間延長、送金の受け手が受け取った資金の中身を確認できるようにする「金融EDI」などの動きが紹介されている。決済サービスに対する顧客ニーズの変化に対応して、決済システムや決済サービスにも高度化・グローバル化などの対応が求められているのである。

第7章では、「決済システムの将来」として、外為決済における時差リスクを解消するための「CLS銀行」や、ビットコインなどの「暗号通貨」について論じられている。

本書の意義としては、「決済から金融を考える」という、これまでにない提案を行っている点が挙げられる。これは著者が自らの仕事を通じて「決済が果たす機能から、制度や組織を考えていくという機能面からのアプローチが必要」と痛感したことがもとになっている。つまり、まず政府が定める通貨や法制度があり、次いで中央銀行や市中銀行などの銀行システムを考え、そうした制度をもとに決済サービスを考えるのではなく、全く逆の方向で、まず「あるべき決済サービス」を考え、それを可能にする銀行システムをデザインし、そのうえで必要な法制度を整備するというアプローチが必要だといっているのである。

わが国では、決済サービスは一般に「為替業務」と呼ばれ、定型的なサービスという位置づけで論じられることが多かった。このため、新しい決済サービスを作って金融機関の収益源にしていくことや、それによって銀行の競争力を高めていくといった発想には乏しい面があった。国際標準の導入など、国際的な対応にも遅れが

目立っている。本書では、決済システムが拠って立つところのIT技術が大きな発展を遂げていることに加え、顧客ニーズの変化や国際的な決済サービス高度化の動きなどから、決済サービスや決済システムが今や大きな変化を求められるようになってきていることを説得的に論述している。

なお、全体の構成からは、第1章から第5章は、やや理念的な整理に重きが置かれており、第6章・第7章になって、ようやく具体的な最近の決済プロジェクトについて記述がなされている。評者の立場からは、こうした具体的な決済高度化への動きについての記述が非常に面白くかつ有益であった。ないものねだりをするとすれば、こうした具体的な問題のウェイトをもう少し増やすことによって、さらに面白い1冊になったものと思われる。

いずれにしても、「決済から金融を考える」という発想は、これまでにない斬新なものであり、大変に興味深い。金融機関のあり方や決済サービス、決済システムに興味のある方に、一読をお勧めしたい。なお、本書を読んで決済についてもっと深く知りたくなった場合には、拙書『決済システムのすべて』をご参照頂ければ幸いである。